

T先生関連ハラスメントについての調査報告（部外秘）

■■■■年12月作成

1) 調査活動におけるインタビュー対象者

- a) ■■■■研究科長
- b) ■■■■学長
- c) 事務課長
- d) センター職員

2) 結果概要

全てのインタビュー対象者が T 先生の素行に関しては、噂以上の情報をお持ちであった。それによると、T 先生によるハラスメントは

- a) 一過性ではなく、常習的、病的、かつ悪質であるように感じられる。その意味で、被害者の広がりには学内外の多数に及ぶと考えられる。また
- b) 確信犯でもあり、露見した場合でも誤解であると言い張り、反省・お詫びの言葉・態度は殆ど無かったようである。

従って、T 先生が■■■■になるようなことがあれば、関係者によるネットへの暴露に始まり、最悪告発される可能性もあると予測できる（複数の同様意見）。

3) 確実なハラスメントのケース

これまでの調査で、確実であるのは次の2件と思われる。

- a) ■■■■さん：D 研究指導中に度々受ける。友人？と直接執行部に訴え。所属研究室変更 修了後■■■■に就職。
- b) ■■■■さん：D 研究関連海外出張中、ホテルで度々。その後、某■■■■大企業に就職。

4) 未確認（噂）レベル

- a) 研究室内では、男子学生に対してもハラスメントが行われており、T 先生が推薦する企業には誰も行きたがらなかった。
- b) 日常的には、男子学生には彼女の、また知り合いの助教等には奥様の紹介を、半ば強要していた。
- c) ■■■■助手の奥様へは実際ハラスメントがあり、その助手は他大学への転出を

強く希望し、移動した。

- d) 事務の女性職員を自分の研究室の職員であるかのように扱い、居室に呼んで仕事等をさせていた。その後関係強化を要求したが断られた。当該女性職員は既に他大学へ転籍。
- e) 出入り業者の女性社員にも声をかけていたらしく、学生の間では公然の噂になっていた。

5) 補足

- a) 最初に学長に挨拶（事情説明）に来たとき、開口一番先生に既に報告済み、という旨述べて予防線を張ったので吃驚されたということでした。また、その当時から、科研費軽視を公言されてもいたそうです。
- b) 研究科長の前で、【謝った】時は、涙を流して土下座したそうです。

なお、これらの調査結果に関しては、複数の当事者による証言が可能である他、非公式記録文書も存在することが確認されています。

以上の内容を考慮すると、T先生は、単に執行部のメンバーとして明らかに適性を欠くと考えられます。

告発状

以上の調査結果を踏まえると、現在■■先生により行われようとしている4月からのT先生の■■任用は、常識的にあり得ない、ハラスメント前歴者の国立大学法人幹部■■登用であるに留まらず、近い将来の、内外からの様々な形での告発の可能性等を考慮すると、新入生、地域住民、及び全国民、さらには他大学法人関係者に本学のマイナスイメージを決定的にし、本学を懸命に支えてきた、文部科学省、本学教職員の、これまでの膨大かつ長期の苦労を全く無に帰する恐れさえある。

このような事態を招かないようにするべく、ここに、T先生のハラスメント歴と予想される次期■■任用の動きを内部告発するものです。まずは、非公式で構いませんので、文部科学省関連部局から本学担当者（責任者）への【懸念表明】や【問い合わせ】等のアクションをお願い出来ましたら幸いです。ご検討の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

■■■■年1月21日

匿名希望